

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>毎月の大正琴や踊り等の慰問に来て頂いたり、暦の行事にはイベントを行っている。又毎年の町内ねぶた祭りや荒川まつり等に参加している。地域消防団、荒川八幡宮の夜宮祭り、上野町会役員会の参加にてコスモス苑の内容を説明し、地域の方に理解して認知してもらえる様、交流を図っている。</p>	<p>21年9月3.4日に青森市立西中学校の訪問活動があり、今年も生徒を受け入れする予定です。又先生、生徒皆さんに苑たよりを持って頂き交流もできる様、したいと思います。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>目くばり、気配り、思いやりの理念に基づき管理者、職員は利用者一人一人の尊厳を尊重し、日々生きがいをもって、楽しく生活できる環境作りに日々取り組んでいる。又一人一人にかかわりながら口腔にも気づけるよう話しかけている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族への日々の過ごしている状況を苑だよりや機会があるたびに電話等で伝えている。又地域包括センターの活動や地域の催し物への参加により地域の方々に周知して頂けるよう交流を図っている。</p>	<p>運営推進会議へ家族、町内会長、民生委員、包括支援センター、消防団長の方々に参加して頂いている。駐在所警察官の参加を頂き行方不明者捜査マニュアルを作成する事が出来た。これからは町内婦人会の参加も御願したいと思います。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>青森市介護保険課、地域包括センターのアドバイスや町内会会長、民生委員の方々の参加で運営推進会議を行い、地域の行事、消防団との交流、町内役員会の総会に参加して近所の方々にグループホームの役割についてや地域に貢献したい旨を伝えている。</p>	<p>町内婦人部との交流を図りたいと思っております。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議で取り上げられた問題についてその場限りの話し合いではなく、介護保険制度上の問題として解決していきたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>福祉権利保護について弁護士主催の研修等に参加し学んでいきたいと思っております。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>専用用紙に理由等書き込み家族に説明し同意を得て拘束の行為を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>不満や苦情にならない様、家族よりの要望を普段から聞き取りしている。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>利用者、家族からの意見、不満、苦情について職員、管理者で検討し解決に向けて討議している又第三者よりの意見を参考にして違う面からの(これでいいの)か)考えについて論議し改善に努めていきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>利用者に対し、苑からの目標と職員は利用者は何をしてやりたいかを目標に掲げ、職員それぞれが実践している。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>勤務に差支えのない様、職員の大半は有休休暇を利用している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員が馴染みの関係を築けるよう各階に定着するよう努めている。又利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。毎月行われている1.2階の合同の行事を行う事により利用者同士や各階の利用者と職員も馴染みの関係を築けるような工夫をしている。</p>		<p>職員の長所、短所を見極めて適材適所に努めたい。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スキルアップの為、職員の希望、会社の指示によって研修への出席を促し、受講させている。</p>		<p>もっと、認知症に対してのスキルアップに努めていきたい。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの交流には参加し意見交換に努めている。病院、施設、包括、居宅の担当員とのネットワーク作りをしている。</p>		<p>グループホーム同士の介護職員の交換研修をして他の良い部分や介護技術等を自分の技術向上やグループホームの運営に取り入れていきたいと思います。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>普段より職員と会話をし身近な問題など話題を共有する環境に努めている。職員との忘年会や食事会などで意見交換をしている。又温泉券で入浴しリフレッシュをするように促している。</p>		<p>勤務形態が許す限り、本人の有休日数を取りやすくさせ、遠方に旅行できるようにしている。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>国家資格を取得した際は資格手当を支給している。働きながら資格を取得しようとする場合は時間を調整している。良い行動、良い気づきをした方には、ミーティングの時皆の前で褒めるようにしている。月間MVPを設けている。職員が良い功績を収めたときは功績を称え報奨金を支給している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学に来苑した際や電話での対応で、入居希望本人の状態やどのような事で家族が困っているのか、心情を話しやすいように気配りをして伺っている。相談した記録を残し、再度相談があった時に失礼のないようにしている。</p>	<p>家族の想い又、利用者の想いを傾聴できるように心掛けている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談や見学に来苑された際、本人の状態や家族が抱えている環境を伺い、その方に適応するサービスの利用をアドバイスしている。グループホームの利用だけでなく、本人に馴染むサービスが受けられるよう、選択できるような説明をしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の思い、嗜好、既往歴等伺い家族からの情報、職員からの情報を検討して適切な対応ができるような環境作りに努めている。環境の変化により帰宅願望や妄想に対して、出来るだけ自宅と同じ生活環境に心がけて、安心して暮らせるよう配慮し支援するように気配りをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の希望、訴え等コミュニケーションを取りながら傾聴し話題を共有している。利用者の希望に対して、拒否や否定せず利用者に寄り添いながら安心した生活を送れるような環境を整えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いや利用者の思いをくみ取り、同じ立場になり信頼関係を築き、支援することを職員に徹底している。		家族がキーパーソンであると共に、職員も家族や利用者のキーパーソンであってほしいと思います。職員は家族と利用者の仲立ちとしてより良い信頼関係を支援できるよう努めていきたい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者を支えるには、職員の介護力にも限界があり利用者への家族の思いやこれから築く関係を考慮しながら力を借りて安心して暮らせる環境と良い関係が保たれるよう心掛けている。契約時に最低月一回の利用料は振り込みにせず、持参して頂くよう御願いをし、家族全員苑に来て頂いている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所には身の回りの馴染みの物を持って来て頂き、家族の写真などで利用者が身近に感じられるように配慮している。家族や友人が来苑した際は、お茶等を一緒に飲んで頂き、安らぎの時間を共有して頂いている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者が友達関係になれるようテーブルを隣同士にしたりカラオケを一緒に歌えるように支援している。トラブル発生時には双方の話を聞き原因を把握し解消に努めている。トラブルの内容は記録し全職員に周知し対応を統一している。		どうしても犬猿の仲になった場合は、1.2階の利用者を移動して頂いている。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されて入院されてる方や別な施設入所の方の状況を伺う機会を作っている。現在受けているサービスが適していない場合、アドバイスをしている。		亡くなった利用者様家族には、お手紙に写真などを添えて送っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員、傾聴ボランティアから、本人の意向や思いを会話の中からくみ取っている。現在受けているサービスが適していない場合、アドバイスをしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時家族より聞きえた情報や本人からも日々の会話の中から生活歴を聞き本人にとって大切な経験や出来事について情報を得るように努めている。知りえた情報は記録し職員全員で共有している</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活パターンの把握に努めると共に、バイタルチェック、日々のコミュニケーションから心身状態の変化を早期発見に努めている。日勤者は一人一人に声掛けをして、心身状態を把握している。その状況を夜勤者に引継ぎ異常を早期発見に努めている。異常発見した時、病院に受診する体制をとっている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思い、家族の思い、職員からの情報をもとにケアのあり方、課題を検討して計画を立てている。</p>	<p>立てた計画表について、家族からの意見をもっと反映できるよう努めていきたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者に変化が生じた場合はその都度、見直しをして家族と相談をし新たなプランの作成をしている。入院時や転倒、車いすへの移行などの変化時に介護計画を新たに作成している。</p>	<p>苑で生活が困難になりそうな利用者様に対しては、家族に老健施設等の申し込み等のアドバイスをしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>昼夜を通じて詳細に記録している。記録は個人ファイルに閉じて保管し状況等の変化に応じて見直しを行っている。介護計画はその人のケアに適合しているか常にケアマネと職員が話しあっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入浴日が行事と重なった時には入浴日を変更し行事を優先している。天候が良い日には外出するように努めている。外部より多彩な芸をもっている方々において慰問して頂いている。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>大正琴、踊り、町内ねぶた、町会の広報、荒川市民まつり等地域との関係を維持し今後も相互協力していきたいと思っている。月2回の他施設での音楽療法に参加、大正琴ボランティアによる月1回の歌と踊りの慰問、又芸人による訪問等により支援している。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他居宅事業所や他ケアマネ、施設相談員と定期的に情報交換会を行いより良い支援に努めている。訪問リハビリマッサージ、訪問治療往診、協力医による訪問看護等の往診を実施している。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>包括支援センターと協働し相談、報告、連絡に努めている。運営推進会議やその他グループホーム研修会等で色々とアドバイスを受けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際は病院やこちらの情報を提供し、電話等で他事業所より問い合わせがあった場合、速やかに対応するように、心掛けている。自宅、病院からの住み替えや入退院について担当のケアマネジャーやケースワーカーと連絡を取り環境に馴染めるよう支援をしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人の尊厳を尊重するよう心掛けている。個人情報に関する書類は事務室に保管してプライバシーに配慮している。一人一人を尊重し、礼儀を重んじた声掛けや対応に努めている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の権利や意見を主張できる配慮している。入居時や面会時、日々の会話などから一人一人の希望等を把握できるように努めている。利用者自身による意思決定を基本とするが意思表示が上手くできない利用者に対していくつかの選択ができるよう支援をしている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の言動を急がず一人一人のペースを尊重したケアを提供している。その日の天候や個々の体調に合わせて臨機応変に対応している。利用者のその人らしさを引き出し、職員は希望を叶える事に重点を置いて行動をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員の送迎により行きつけの美容院へ定期的に出かけている。苑には床屋さんが毎月来苑され一人一人の希望に合わせた支援が行われている。		ここ1、2年、日帰り旅行が出来ないでいましたが、入居者より温泉に出かけたいと希望がありましたので、出かけて希望を叶えたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カラフルなランチョンマットを使用して楽しく食事が摂れるように工夫をしている。職員は入居者の側で食べこぼしや全量摂取して頂く為にさりげない支援をしている。利用者の誕生日には利用者の食べたい食事を用意している。行事食の他に季節感のある献立の作成に努めている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーの飲める利用者にはおやつ時、コーヒーを入れて飲んでもらっている。若い人が食べるものの好みならず、利用者の好みに配慮している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状況を記録して排泄パターンを把握している。その事により事前誘導を行うことにより、極力おむつに頼らないケアをしている。		排泄表を付けて一人ひとりのパターンに合わせてトイレへの声掛けをしている。又おむつ使用を減らすように努めていきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴としているが希望があればいつでも入浴できるように対応している。入浴時には見守りを中心としながらも必要に応じて介助している。入浴日は決まっているが臨機応変にできるようにしている。希望があれば温泉に連れていっている。		毎日利用者二人、5時～6時の間に足浴を実施している。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを記録し把握に努めている。昼夜逆転しないよう日中、歩行運動やレクリエーション活動を促している。日中活動を工夫し、薬物に頼らず眠れるように支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の得意なところを把握している。洗濯物たたみ等の軽作業を行ってもらうと共に終了後は感謝の言葉を掛ける等個々に役割意識を持てるよう支援している。音楽療法の参加、温泉の好きな方への支援、近隣への散歩、ドライブがてら、萱野茶屋へ行っておでんを食べる事等の援助等行っている。		弘前りんご公園に利用者全員と出かけた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自らが金銭管理を行うことの重要性を職員は理解しており、日常的にお金に触れる機会を設けている。自己管理のできる入居者にはあまり高額にならない程度に管理してもらっている。お小遣いを自分で持って買い物し、支払いが出来る利用者には支払いもお願いしている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外気欲等を積極的に促している。入居者の希望を聞きながら、食事会へ出かけたり苑庭での会食会を行っている。外出の際は入居者の体調に配慮し出かけている。		職員の人数により散歩が出来ない時があるので、職員の配置を考え出かけられるよう支援したい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉、ショッピング、高原等に利用者を誘って出かけている。		利用者よりもっと希望を頂いて叶えられるようにしたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのコミュニケーションを取りやすいよう、希望があればその都度対応している。電話を家族、友人に掛けたい利用者には介助をしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は家族の都合に合わせて対応している。その際はゆったり過ごせるよう、お茶、コーヒーの提供など環境作りに配慮している。宿泊の希望がある場合には食事や寝具を提供する体制が整備されている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解を深めるように取り組み、身体拘束をしないという認識で日々のケアを提供している。言葉や行動を拘束することも無く、寄り添いながら見守りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず入居者は自由に入出入りすることができる。外出傾向を察知できるよう見守りを行うと共に察知した際はさりげなく付き添い見守っている。無断外出に備えて近隣の方たちに協力を御願している。鍵が掛かっていないので外に出る様子の利用者には気がすむまで付き添って歩くようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの日常生活ののパターンを把握しコミュニケーションを取りながら常に目配り、気配りを忘れず事故につながらないように援助している。全職員が利用者の安全について気を配り事故防止に努めている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁等のものは入居者の手や目に触れないように管理している。安全について常に重視し、管理体制をとっている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	発生時には報告書を作成すると共に申し送り等で再発の防止に向けた話し合いを行っている。定期的に避難訓練を行っている。事故防止に対する心構えについて日頃話している。行方不明マニュアル等も作成している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えマニュアルを整備している。利用者の急変に備えて、マニュアルを読解するように促している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡体制や役割分担等の取り決めがある。毎月非難訓練を実施している。運営推進会議のなかで、避難について消防団団長にアドバイスを頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行困難や立位困難になった場合でも家族に現状を把握して頂き、歩行器や車椅子の使用になることを話して対応策について理解を頂いている。徘徊して夜中に他利用者のドアを開けて歩く方の場合でも双方の家族に現状を話し解決策を理解して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルや様子から体調の変化が起きたら主治医に相談できる体制を作っている。協力医療機関への相談、報告により異変時の対応の指示を頂いている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者の状態を把握すると共に薬の用法や用量、副作用、医師の指示等が記録されたケース記録をもとに対応している。又薬の変更時はその都度副作用等を申し送りしている。服薬による状態変化は状況判断すると共に医師や家族に連絡している。薬が新しくなった時は調剤薬局のアドバイスを受けられる体制を取っており、職員全員が周知している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。日頃から便秘の予防の為、食事を工夫したり、身体を動かす働きかけをしている。下剤は極力使用しないように心掛けている。ヨーグルト等の乳製品やバナナを使用して工夫している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔内の清潔の為食後の口腔ケアを行っている。歯科の往診によって、義歯の調整により食事を美味しく食べられるように支援している。一人ひとりの力量に応じて歯磨き等の介助をしている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重を測定している。水分量については常に気を配っている。		水分量について各個人がどれ位摂っているか、調べる体制を整えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	入居者、職員はインフルエンザ予防接種を行っている。市、県よりの感染症予防の事例、予防等の通達書類を回覧して周知している。まな板、シンク、包丁、洗面台、手すり等の塩素によるふき取りを行っている。手洗いの励行、うがい、汚物の取り扱いについては手袋着用、仕事によるエプロンの取替え等については職員全員が行っている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の台所の清掃、定期的なレンジ回り、換気扇、冷蔵庫内の清掃を徹底している。魚、イカ、貝、肉類の食材の調理の際は、包丁、まな板等の清掃や調理については過熱して食べるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花の鉢植えや観葉植物を置き家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。建物入り口にはホーム名が書かれた看板を掲げ、門にはフクロウの置物を飾り、親しみやすく配慮している。玄関ホールは広く取っており、長いすを設置して待機できるようにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射しの強さはカーテンで調整している。テレビの音量は適切に設定している。見やすい所には時計やカレンダーを設置し季節感のある装飾品を飾り、常に日時や季節を認識出来るように努めている。		食堂と居間にそれぞれ椅子とソファを設置しているが、利用者は居間にくつろいでいないので、座るよう促していきたい。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルやソファを置き、廊下にも椅子を設置し入居者同士で団らんしたり、一人でゆっくり過ごせる場所が確保されている。利用者同士がカラオケを歌えるようスペースを設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンスはホームで用意したものであるが、それ以外の物品は持ち込んでもらうように家族に働きかけている。テレビや棚等生活用品の他、家族の写真等を持ち込まれ安心して過ごせる環境を作っている。一人ひとりの部屋が個性的になるように、今まで使い慣れた馴染みの物を家族に御願している。		
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開けたり換気扇を使用して換気を行っている。温度計、湿度計を設置し、冬季は加湿器の他にバスタオルをぬらしてパネパネルヒーターで苑全体を温度管理をしている。こまめに温度調整している。ルヒーターに掛けて湿度調整をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを設置し利用者が安全で自立した生活が送れるように配慮している。階段の上り、下りにとても適した高さになっているので、歩行練習に使用している。		
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の場所間違いの状況を把握し目印や名前を付けて場所間違いを防ぐ工夫をしている。部屋を間違っ覚えていてる方などは自力で自分の場所へ行けるようさりげなく寄り添い誘導している。		
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	食堂と居間が分離しているので食事を摂っている利用者がいても、気にせずに居間でテレビをみてくつろげる空間をつくっている廊下部分を利用して歩行訓練が出来るようになっている。1階、2階の交流をして動ける空間を広げている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム コスモス苑の理念、目配り、気配り、思いやりですが、介護の原点につながる必要な事柄だと思っています。利用者が不穏な行動をしていないか目配りをして、利用者のプライドをきずつけないように気配りをし、利用者が何を望んでいるのか意向をくみ取る思いやりの心をもって職員は利用者向き合っている。コスモス苑としての目標(毎晩の足浴)や職員全員が利用者に対して利用者(何をしたいか)の目標を掲げて達成できる様実践している。